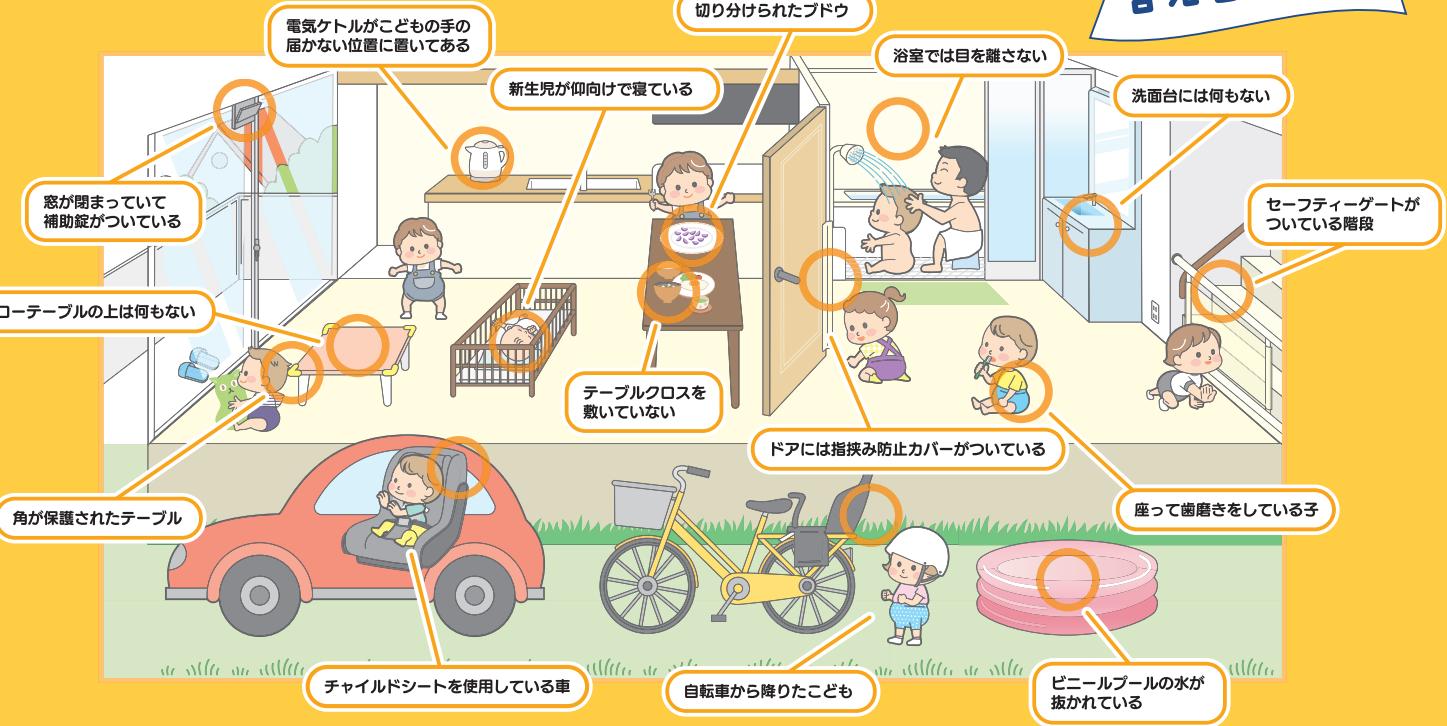




# まちがいさがし

## 答え合わせ編



**窓を開いていてベランダにこどもが出ている**  
ベランダから転落する恐れがあります。こどもの手が届かない高さに補助錠を設置しましょう。また、開きを制限するストッパーの使用も有効です。

電気ケトルとカップラーメンが子どもの手が届く位置に置いてある

やけどの事故は、つかり立ちや低い歩き、ハイハイで行動範囲が広がる、1歳前後に多く起きています。子どもの手が届かないように、高温の飲み物や汁物をテーブルに置くときは中央に置きましょう。

新生児がうつ伏せてすぐ隣にぬいぐるみがある

仰向けで寝かせましょう。また、柔らかいぬいぐるみや寝具は窒息のリスクがあるため使用を控えましょう。

ドウをそのまま食べやしている

乳幼児に食品を与える際は、無理なく食べられるように小さく切り、飲み込むまで目を離さないようにしましょう。ミニトマトやブドウなど、丸くつぶるとして食品は、そのまま口に入れるのが危険です。4等分に切って与えるようにしましょう。部分の豆さまで使用する硬い大豆や、ナツツケ類はこどもにとって窒息や誤嚥のリスクがあります。5歳以下のこどもには、硬い豆やナツツケ類は与えないようにしましょう。

親が髪の毛を洗っていてこどもが浴槽で溺れている

大人が洗髪する際には、こどもを浴槽から出します。浮き輪の使用中でも溺れる事故が発生しています。保護者が目を離す状況で使用するのはやめましょう。お風呂から上がる際には、こどもを先に浴槽・浴室から出しましょう。

**ローテーブルの上に散らかったジグソーパズル**

ジグソーパズルなどの小さなおもちゃには誤飲のリスクがあります。年上のこどものおもちゃには、小さな部品が含まれていることがあります。対象年齢になるまでは、子どもの手の届かない所に保管し、遊ばせないようにしましょう。おもちゃの購入時や利用時は、商品の対象年齢を必ず守りましょう。

**保護されていないテーブル**

転倒してテーブルなどの家具の角に顔や頭をぶつけ、けがをすることがあります。角の丸い家具を選ぶ、クッションテープを取り付けるなどして、ぶつかってもけがをしないように工夫をしましょう。

**チャイルドシートを使用していない車**  
チャイルドシートはこどもの体格に合わせたものを使用するようにしましょう。

テーブルクロスの上にご飯が並んでいる

テーブルクロスやランチョンマットは、こどもが引っ張って、その上に載った容器を倒す原因になりやすいので使わないようにしましょう。

自転車の補助椅子に1人残されているこども

こどもを乗せたまま自転車を離れないようにしましょう。こどもを2人乗せる時は、転倒防止のため、「乗せる時は、後部座席から前部座席」、「降ろす時は、前部座席から後部座席」の順番を守りましょう。

**ドアに指をはさんだこども**

隙間防止カバーや指挟み防止用のストッパーなどの事故防止グッズを活用しましょう。また、ドアが勢いよく閉まることがないよう、ドアストッパーなども使用しましょう。

庭に置かれたビニールプールの中に水が溜まっている

乳幼児期は、水深が浅くても溺れる危険性があります。また、1歳半を過ぎた幼児期になると行動範囲が広がるため、注意が必要です。不要な水は抜き、こどもが水に近づかないようにしましょう。

**セーフティーゲートがない階段**

階段からの転落事故を防ぐためには、セーフティーゲートの設置と滑り止めマットの使用が効果的です。セーフティーゲートは、階段の上下両方に設置しましょう。滑り止めマットは階段全体で敷き詰めることで、こどもが足を滑らせて転落するのを防ぐだけでなく、万が一転んでしまった場合でも衝撃を和らげる役割を果たします。

**歩きながら歯磨きをしている子**

こどもの歯がさ中に、歯ブラシをくわえたまま転倒したりぶつかったりして、のどを突く事故が起きています。座って歯を磨く習慣をつけてましょう。のど突き防止歯ブラシも販売されています。